

# 本物の発信者を目指した 活動型授業の実践

---

近藤 有美 ・ 川崎 加奈子  
(長崎外国語大学)

# 1. はじめに

---

- 大学教育に求められること  
...「自律した」「自己実現可能な」人間の育成  
(門倉2005)
- 今、どのような能力の育成が必要か...  
「問題発見・探究能力」「自律的学習能力」  
「批判的思考能力」「他者からの学習・協力能力」  
「自己表現能力」「学習応用能力」  
(三宅2005)

# 1. はじめに

「自分の目」で見て、「自分で入手した情報」を伝える活動

～留学生が見た長崎くんち～

- どのような能力が育成されるか
- 本物の発信者となるには、どのような能力の育成が必要か



[http://www.jwn.ne.jp/lj/article/20071012\\_000137.html](http://www.jwn.ne.jp/lj/article/20071012_000137.html)

## 2. 実践内容（クラスの概要）

---

- 対象

長崎の大学で学ぶ学部留学生（3年生）69名

Aクラス...22名、Bクラス...24名、Cクラス...23名

- 科目

「上級総合日本語」「情報日本語」2科目合同授業  
(週2コマ×15週)

- 期間

2010年度後期授業(90分×週2コマ×15週)のうち、  
10コマを本実践に使用

## 2. 実践内容（本実践の流れ）

---

### ①事前学習（1コマ）

「長崎くんち」特集のニュースを視聴



### ②祭り見学（2コマ）

2010年10月7～9日（授業の振替）



### ③ブレインストーミング（1コマ）

印象に残ったことを単語で書きだす。10語をホワイトボードに板書。印象に残った理由などをクラスで共有する。



## 2. 実践内容（本実践の流れ）

---

### ④グループ討議・発表準備（4コマ）

3～4人のグループで、各自が見た「長崎くんち」の情報を共有し、発表内容を討議する。

発表準備（Power Point作成、発表原稿書き）



### ⑤発表（2コマ）

各グループ12分で発表。ABクラスは合同



### ⑥振り返り（宿題）

## 2. 実践内容（評価方法）

---

- 「上級総合日本語」  
教師が事前に設定した評価基準により評価
- 「情報日本語」  
初回の1コマを使用して各クラスで評価基準を検討し、そこで決定したものを各クラスの評価基準とした。

### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

---

- 問題発見・探求能力
- 自律的学習能力
- 批判的思考能力
- 他者からの学習・協力能力
- 自己表現能力
- 学習応用能力

三宅(2005)

<http://www2.toyo.ac.jp/~miyake/>



### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

#### 3.1 問題発見・探求能力

学生1: まったくわからなかった長崎くんちだったから ほんとうに楽しくなかった。それで理由はどこにあるか探してインタビューをしたこととかインタビューで少しわかっていくことがよかったんです。

課題への疑問



問題発見・探求

## 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

### 3.1 問題発見・探求能力

学生2(B): (授業についての感想) 中国人として、日本において、中国から伝えたものは長い間保存されたのは不思議だと思います。日本文化についてもっとすすめて勉強すべきです。

学生3(C): (授業についての感想) 長崎いろいろな歴史と伝統文化を知りました。日本には日本のさまざまな伝統文化をしらべてほしいです。

一連の活動



問題意識の深まり

### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

#### 3.2 自律的学習能力

学生4(B): (授業についての感想) 先生は知識を教えると違うほとんどのことは自分をする。自分の能力が鍛錬しました。

学生5(B): (授業についての感想) インターネットで新聞でいろいろな方面の情報を調べました。そして自分でくunchiを見学しました。さらにグループを仕組み四人の感想を集め発表の準備していました。学生の活動力と協力性が高まりました。

## 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

---

### 3.3 他者からの学習・協力能力

Q: 本活動の中で一番楽しかったことは？

A: 「グループ活動」(Aクラス7名, Bクラス3名, Cクラス1名)

Q: 本活動を通して自分が学んだと感ずることとは？

A: 「協力」「団結」「チームワーク」

(Aクラス12名, Bクラス3名, Cクラス11名)

### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

学生6(A): もし一人しかいなければ発表は絶対うまく行けない。やはりチームワークは大切だと思う。そして、この間チームメンバーはいろいろ手伝ってくれて、私は一人じゃないと感じさせられた。

学生7(A): メンバーたちと話しながら、自分の考えよりもっといいアイデアの考え方も学んだ。そして、グループの協力の力の強さも感じた。

学生3(C): 団結がある。みんな発表するためにみんな一生懸命にがんばります。もし誰でも努力することなく発表するせいこうに行われるできない、みんなの努力の結晶です。

### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

**軋轢**

#### 3.3 他者からの学習・協力能力

学生8(A):内容は複雑でまとめるのは難しく、4人のそれぞれの意見も違います。なかなか大変です。

学生9(B):グループの人と意見があわないことが大変でした。やはり国によって考え方が違うと思います。

学生10(C):みんな一緒に頑張りますから、考えることは多くなった。視角が違いますから、感想も違います。

「グループ活動での軋轢」



「グループ活動での学び」

**軋轢**を超えたところに  
**学び**が生まれる

### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

#### 3.3 他者からの学習・協力能力

さまざまな視点からの他者の発表



- ・「くんち」への理解が深まった
- ・発表方法や調査手法を学んだ
- ・自分の不足を感じた

グループ活動

+

他者の発表



### 3. 学生の振り返りに見られる各能力育成の兆し

#### 3.4 自己表現能力

「自分の考えを伝えることの大切さ」(A:7名, B:3名, C:1名)

学生11(A):資料の整理や自分の感想をちゃんと書けます。これは本当に有意義だと思います。普段何か見てもちゃんと自分の感覚を整理して書いたことがなかなかないですから、今度は自分の感じたものをかけるのは、ほんとうにいい感じしました。

#### 能力が伸びる可能性を示唆

学生9(B):ステージの前に立つとあんまり言葉がうまくでないことだが、学生時代にこのような練習をしなければいけないこと。また、言葉の能力を伸ばすこと。今から私の課題と思います。



## 4. 他学生へ影響を与えた二つの発表

### 4.1 グループB 1 「見えない汗と涙」

「長崎くんち」見学での学生の苦労

- ・チケットを持っていなかったなので、出し物がほとんど見られなかった
- ・チケットが買えず、あちこち行列を追った
- ・見るために昼食もとらず立ちっぱなしだった



<http://musasabi.sblo.jp/archives/200908-1.html>



<http://blog.goo.ne.jp/hhh1010/e/44fac9fb4bd53f1b6afb1a5fc1e8c052>

2011年度日本語教育学会春季大会

## 4. 他学生へ影響を与えた二つの発表

### 4.1 グループB1「見えない汗と涙」

グループB1が注目したもの

⇒ 祭りの脇役

- 道路で交通整理をする警官
- 雨で水たまりができた会場を整備するスタッフ

いい発表！  
特別な感じがする  
唯一感…



斬新で  
ユニーク

## 4. 他学生へ影響を与えた二つの発表

### 4.1 グループB1「見えない汗と涙」

グループB1の成長

「長崎くんちがよく見えない」



裏方スタッフに焦点を当てる

「自分の目で見えた長崎くんち」を伝えることができた



- ・ 問題発見・探究能力
- ・ 自律的学習能力
- ・ 自己表現能力

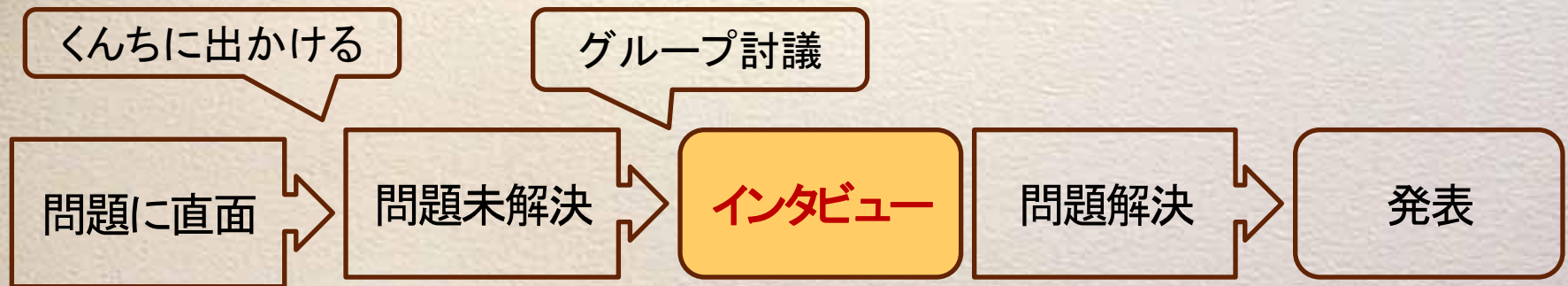
育成の兆し

## 4. 他学生へ影響を与えた二つの発表

### 4.1 グループB2「長崎くんち、何がおもしろい？」



なぜこんなにたくさんの方が集まるのか？  
どこがおもしろい？



## 4. 他学生へ影響を与えた二つの発表

### 4.1 グループB2「長崎くんち、何がおもしろい？」

B2グループメンバーの振り返り(一番大変だったこと)

学生1(B): 私たちチームのテーマが「長崎くんち、楽しいの??」で、自分たちはほんとに楽しくなかったから、このテーマに決めました。どうすればこの問題を解決できるか、たくさんの時間考えました。簡単にテーマをきめたけれども、実は複雑なテーマになったことです。

学生12(B): インタビューに適切な相手を探すこと。年齢別に長崎くんちについてどう思うかが、私たちのグループのテーマでしたが、それに適切な人を探したかったです。

## 4. 他学生へ影響を与えた二つの発表

### 4.1 グループB2「長崎くんち、何がおもしろい？」

B2グループメンバーの振り返り(一番楽しかったこと)

学生1(B):相手とインタビューする時、一緒に話しながら情報を取って分かるようになることが一番楽しかった。

学生12(B):インタビューで少しずつ分かっていくことがよかった。

- ・ 問題発見・探究能力
- ・ 自律的学習能力

} 育成の兆し

## 5. まとめ

---

- 問題発見・探求能力
- 自律的学習能力
- 批判的思考能力
- 他者からの学習・協力能力
- 自己表現能力
- 学習応用能力

三宅(2005)

<http://www2.toyo.ac.jp/~miyake/>

# 5. まとめ

図1 【クラス内の能力育成の過程】

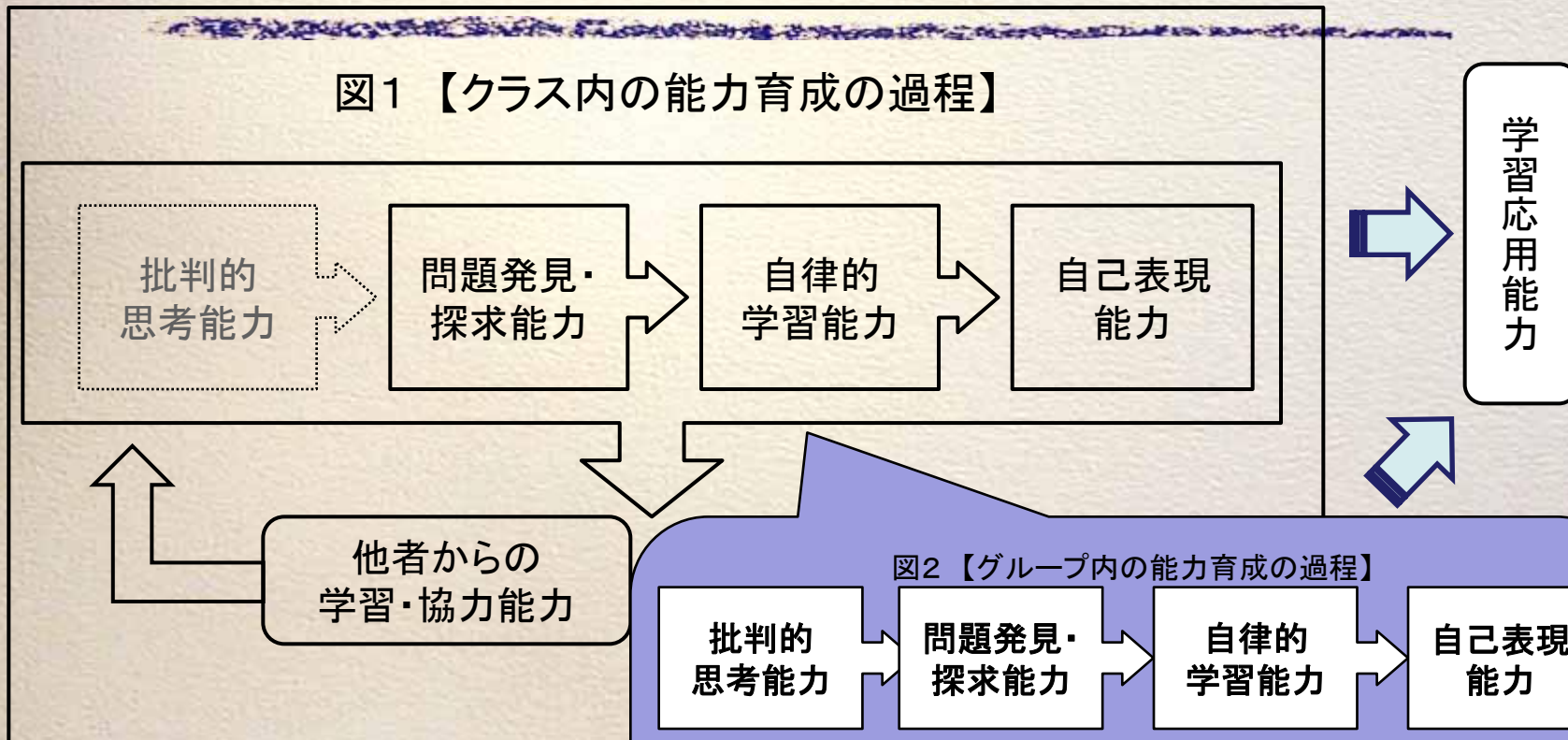
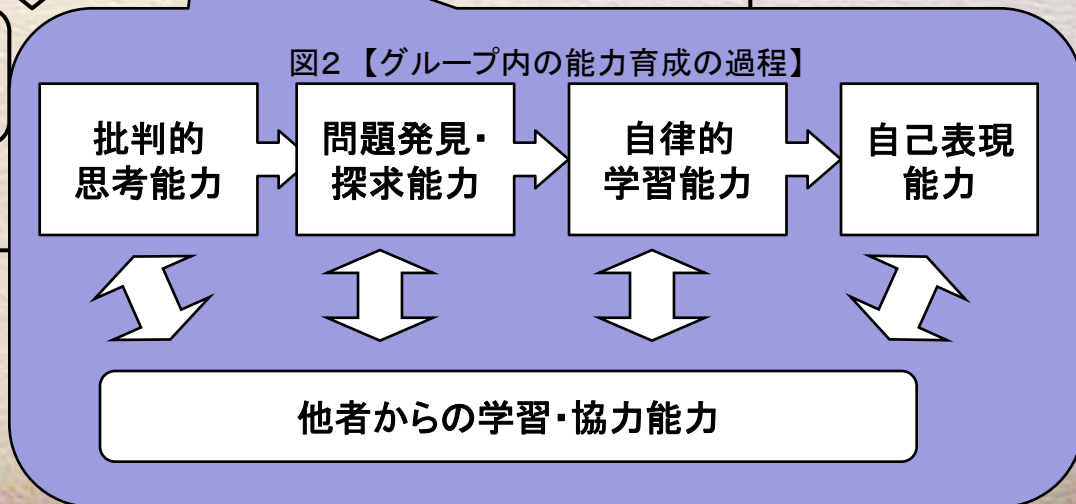


図2 【グループ内の能力育成の過程】





## 【参考文献】

- 門倉正美(2005)「アカデミック・ジャパニーズのコアとしての『問題発見探究能力』」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』249-251.
- 佐藤公治(1999)『対話の中の学びと成長』金子書房
- 三宅和子(2005)「自己表現できる力を育てる教育」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』256-258.
- Johnson, D. W., Johnson R. T., and Smith K. A. (1991) *Active Learning: Cooperation in the College Classroom*, Interaction Book Company. (D.W.ジョンソン, R.T.ジョンソン, K.A.スミス(2001)『学生参加型の大学授業—共同学習への実践ガイド』玉川大学出版部)